



国民平和大行進 4日



5月に東京を出発した68回目の2025年原水爆禁止国民平和大行進が4日、原爆ドーム前に到着。大平氏も行進が広島に入った7月26日とこの日の行進に参加しました。

原爆養護ホーム「神田山やすらぎ園」

慰問 6日



園長から入園者の状況や施設のとりくみについての説明を受けたのち、約30人の入園者らが待つ部屋へ。議員団からお見舞いと核廃絶への決意を述べるとともに、入園者に花束と見舞金を贈りました。

被爆80年の8月、大平よしのぶ元衆議院議員は核兵器廃絶と被爆者援護への決意を胸に、平和記念式典や原水爆禁止世界大会への参加、被爆者のお見舞いや街頭演説など行いました。

核兵器のない世界を

被爆80年 いまこそ――

被爆80年

5日、原爆ドーム前で街頭演説。「核兵器のない世界の実現へ日本政府は核兵器禁止条約にただちに参加を。原爆被害への国家補償を実現し、『黒い雨』被害者や在外被爆者を含むすべての被爆者の救済と尊厳を守るために全力をあげる」との大平氏らのうったえに、街ゆく人たちが次々と立ち止まります。6日の取材へと来日していたドイツのメディアも通りかかり、すかさずカメラを回し翌日の「ワールドニュース」で放映されるなど大きな反響がありました。

原爆碑に献花 6日



6日早朝、田村智子委員長をはじめ党国会議員団、広島県議団・広島市議団とともに、平和記念公園の原爆碑に献花し、犠牲者を追悼しました。

核使用 想定演習否定せず／被爆国政府にあるまじき事態

7月30日、国会内でアピール文を手渡し大平氏と山添・仁比・白川の各参院議員



日米が「有事」で米軍の核兵器を使用する協議を行い、共同演習で自衛隊が米軍に「核の脅し」をするよう求めたとされる中国新聞の一連の報道をめぐり、大平氏は、山

添拓、仁比聡平、白川容子の各参院議員とともに、政府に事実関係をただしました。政府は、自衛隊が「核の脅し」を求めたことは「事実無根だ」と述べつつも、「米軍が核兵器を使用する」というシナリオの存在については否定しませんでした。

大平氏は、前日に原爆ドーム前で行われた緊急抗議集会のアピール文を手渡し、「唯一の戦争被爆国の政府が核兵器使用の議論を率先して行うなど言語道断。『核抑止』ではなく、核兵器禁止条約に参加し核廃絶にむけて世界をリードすべきだ」と求めました。

登録を
お願いします



日本共産党
公式YouTubeチャンネル

「しんぶん赤旗」
3週間無料キャンペーン



お申し込みは
コチラ